

校訓	盡己	令和5年度学校通信 「松中だより」 第7号	発行日	令和5年5月29日
教育目標	未来を創造、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

「伊丹一句の日」(R5 1～3月分) 八田先生 佳作入賞

市立伊丹ミュージアム主催、「伊丹一句の日」1～3月分 で、卒業生2名とあわせて1年生職員の八田先生の句が佳作に入賞しました。おめでとうございます。

入賞作は次の句です。

受験票かじかんだ手でにぎりしめ



受験生の緊張や思い、願い、それまでの努力が思い浮かぶような句ですね。

「伊丹一句の日」は毎月19日(いっく)に市内各所にもうけられた投句箱に寄せられた句やインターネットで応募された句の中から、特選1名、入選 19 名、佳作20名が選ばれ、特選、入選には市内の企業から伊丹にちなんだ賞品が贈られます。過去の卒業生には特選、入選に入賞した人もいます。投句箱は松崎中学校の図書室前に投句用紙とともに設置してあります。皆さんも「俳句」に挑戦してみませんか？ 次の応募期間は6月19日～21日です。

長崎に行く意味

5月31日(水)から6月2日(金)に3年生の修学旅行が行われます。行き先は長崎です。なぜ長崎か？ 理由はたくさんあると思いますが、その中の1つに「被爆地」であるということがあげられます。世界で唯一の被爆国の日本。そして、被爆地の広島、長崎。なぜ、そこを訪れるのか。先日行われたG7 広島サミットで平和記念資料館を訪れた各国首脳が残した記帳から考えてみましょう。

日本 岸田総理大臣

「歴史に残るG7サミットの機会に議長として各国首脳と共に『核兵器のない世界』をめざすためにここに集う」

フランス マクロン大統領

「感情と共感の念をもって広島で犠牲となった方々を追悼する責務に貢献し、平和のために行動することだけが、私たちに課せられた使命です。」

アメリカ バイデン大統領

「この資料館で語られる物語が、平和な未来を築くことへの私たち全員の義務を思い出させてくれますように。世界から核兵器を最終的に、そして、永久になくせる日に向けて、共に進んでいきましょう。信念を貫きましょう！」

カナダ トルドー首相

「多数の犠牲になった命、被爆者の声にならない悲嘆、広島と長崎の人々の計り知れない苦悩に、カナダは厳粛なる弔慰と敬意を表します。貴方の体験は我々の心に永遠に刻まれることでしょう。」

ドイツ ショルツ首相

「この場所は、想像を絶する苦しみを思い起こさせる。私たちは今日ここでパートナーたちとともに、この上なく強い決意で平和と自由を守っていくとの約束を新たにす。核の戦争は決して再び繰り返されてはならない。」

イタリア メローニ首相

「本日、少し立ち止まり、祈りを捧げましょう。本日、闇が凌駕（りょうが）するものは何もないということ覚えておきましょう。本日、過去を思い起こして、希望に満ちた未来を共に描きましょう。」

イギリス スナク首相

「シェイクスピアは、『悲しみを言葉に出せ』と説いている。しかし、原爆の閃光に照らされ、言葉は通じない。広島と長崎の人々の恐怖と苦しみは、どんな言葉を用いても言い表すことができない。しかし、私たちが、心と魂を込めて言えることは、繰り返さないということだ。」

世界のリーダーたちは、想像を絶する、言葉にできない惨状を目の当たりにし、何を思い、決意したのか。

そして、今度は3年生が長崎を訪れます。今、皆さんは総理大臣でも、大統領でもありません。しかし間違いなく言えることは一人一人が世界の未来を担っているということです。長崎でしっかり見て、感じて、歌って、きっとわいてくるであろう思いを紡ぎ、未来へ繋いでもらいたいと思います。

